

REGENSBURG

レーゲンスブルク便り

文と写真：吉村美佳(レーゲンスブルク在住)

第6回配信 2015. 12 月号

朝日出版社

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-3-5 TEL: 03-3239-0271

[URL] <http://www.asahipress.com>



旧市庁舎の塔、最上階からの眺め

クリスマス・マーケットの季節



クリスマスの飾り付けがなされたヴァーレン通り

ドイツでクリスマスをお祝いするのは、クリスマスの前をさかのぼって4回目の日曜日から。この日からクリスマスまでの時期をAdvents（アドベンツ）と呼びます。

レーゲンスブルクには4カ所にクリスマス市が立ちます。旅行会社が毎年企画するドイツのクリスマス市をめぐるツアーを利用し、日本からの観光客もたくさん。

街で一番大きいクリスマス市はノイプファー広場のもの。ドイツで10本の指に入るほど美しいと言われ、かつグリューワインと呼ばれる香辛料が入った温かいワインがなんと28種類もあるとか。今年は例年より早く23日の月曜日にスタートしました。2週間も前から広場に小屋が設置され準備が着々と進んでいました。

職人が作った商品を扱うクリスマス市、レーゲンスブルク最古の醸造所であるシュピタル、バッキンガム宮殿より大きなお城、トゥルン・ウント・タクシスの高級感漂うクリスマス市もあります。



ノイプファー広場のパンに挟んだソーセージを売る店。1/2mの長さのソーセージや辛いソーセージもあります。

市政公開日

隔年開催の市政公開が11月の日曜日に行われました。旧市庁舎がメインとなるのですが、高さ48mの塔(1240年)の内部や神聖ローマ帝国の帝国議会の会場として有名な建物(1340年)の屋根裏も見学可能。帝国議



帝国議会の準備会議、グリーンテーブルの部屋

会の会場は、元々はダンスホールとして造られたもの。音響効果が良いため、この日は音楽学校の生徒によるミニコンサートが行われていました。



旧市庁舎塔内部の鐘

旧市庁舎には歴代市長の肖像画が過去3人分飾られていました。2014年まで市長をつとめたハンス・シャイディンガー氏の肖像画もあったのですが、これは最初ノーネクタイで描かれたため本人が気に入らず、描き直させ、巷をにぎわせたもの。

当日は、買い物が出る日曜日、いくつかの博物館も入館料無料ということも重なって老若男女問わず街は大賑わいでした。

ロッククライミング

レーゲンスブルクの北西には、石灰岩で出来た岩が剥き出しとなり、ロッククライミングに適した場所がいくつもあります。

また、室内練習場も大人気。夜は平日で23時まで、週末は22時までなので仕事帰りでも立ち寄れる他、午前中も割引料金の設定があるためか大繁盛。クリスマスも大晦日や新年も、営業時間を短縮して営業。

子供の誕生日イベントもある他、お試しコースもあるので子供達にも人気。子供向けコースはウェイティングリストに450名程度の名前があるとの噂。ジュニア・カップも12月に開催されます。一方、中年層にもまだまだ人気があるようです。

ロッククライミング人口はドイツ全土で30万人、ヨーロッパ全体で200万人(2010年)。



賑わうロッククライミング場。野外も利用できる。



ロッククライミングが許可されているレーゲンスブルク近郊の岩場。

白ソーセージ

白ソーセージと言えばミュンヘン。白ビールと甘いマスタード、ブレーツェ(パン)が必需品。昔は、白ソーセージに正午の鐘の音を聞かせるなという位、鮮度が大切なものだった。

他のソーセージと違って、70度のお湯で10~15分ほど茹でた状態でサービスし、食べるときに皮をはぎ取る。これは豚の腸を使っているため、高い温度だとはち切れてしまうこと、また皮が厚いので食べるのに適さないことが理由。



友達を招待し、白ソーセージを遅めの昼食に食べている。

白ソーセージの歴史はおよそ150年とまだ若く、焼きソーセージの在庫を切らした肉屋が偶然作り出したものという説も。

白ソーセージを食文化として持つのはミュンヘンを中心とした半径100km圏内、またはバイエルン内で北緯49度線を北限とする地域。つまりそれはほぼドナウを北限とする地域とも言い換えられる。そしてそれはレーゲンスブルクがその北限となる、ということ。

参照▶

<http://www.br.de/radio/bayern2/gesellschaft/notizbuch/grenzgaenge-weisswurstaequator-bayern-100.html>



白ソーセージ